令和3年度 園だより

こうきた　11月号

杉並区立高円寺北子供園

コロナ禍でもできる小学校との交流

園長　須田　なぎさ

10月16日の『こうきたオリンピック』では、皆様に感染症対策にご協力いただきましたおかげで、無事におえることができました。ありがとうございました。

4歳児は、初めての大きな行事で、普段と違う体育館の雰囲気を感じ、少し緊張しながらも、普段通り広い体育館でのびのびと動く姿は素敵でしたね。5歳児の様子をみていると、いつもと違う緊張感が力を発揮する源になっているのを感じました。毎日楽しんできたオリンピックの一番素敵な姿を保護者の方に見ていただけました。金メダルを一人一人に渡したときの子どもたちの嬉しそうな笑顔忘れられません。ご家庭からのアンケートには、子どもたちの成長を感じていただけたというメッセージが多く嬉しく読ませていただきました。

『こうきたオリンピック』が終わった後も、4歳児たんぽぽ組は、憧れてみていた5歳児の「やってみよう」で使っていた旗を真似して作り踊ったり、リレーに挑戦したりして、楽しんでいます。また、5歳児もリレーを繰り返し楽しむだけでなく、4歳児の「マッチョ遊園地」をしたり「ウキウキパレード」を踊ったりして楽しんでいます。行事が終わった後も、『こうきたオリンピック』の余韻を楽しめるのはいいですね。

さて、『こうきたオリンピック』の開会前に、高円寺小学校の6年生の応援パフォーマンスの映像をみていただきました。短い時間ではありましたが、70人以上の6年生が心を一つにして行ったパフォーマンスは素敵なもので、子どもたちもじっと真剣にみていました。

幼稚園教育要領には、「幼児教育と小学校教育の円滑な接続のために、幼稚園(子供園)の幼児と小学校の児童との交流の機会を積極的に設けるようにする…」とあります。さらに、「特に5歳児が小学校就学に向けて自信や期待を高めて、極端な不安を感じないよう、就学前の幼児が小学校の活動に参加するなどの交流活動も意義のある活動である…」とあります。

高円寺北子供園は、もともと一緒に暮らしていた杉並第四小学校と、日常的に交流活動を行ってきました。小学校が移転をして物理的に距離ができたのに加えて、コロナ禍で、以前のような交流を行うのは難しい状況でしたが、今できることを考えて声をかけてくださった高円寺小学校6年生に感謝です。

6年生の応援パフォーマンスを目の前で見た子どもたちは、小学校の大きなお兄さんお姉さんのことを、身近に感じたでしょう。また、担任の先生より大きい6年生の体格、息の合った動きに、「すごーい」「かっこいい」と憧れの気持ちをもったことでしょう。

5歳児にじ組は、「ありがとう」の気持ちを手紙にして、6年生に届けました。手紙をみた6年生が、自分たちのしたことが、子供園の幼児のためになり役に立ったという気持ちを持ってもらえたら嬉しいと思っています。交流は、このようにお互いにとって学びになるものであることが大切です。

11月4～6日に高円寺学園で行われる展覧会に、子供園も出展します。また、小学生の作品を鑑賞させてもらうことで、小学生を身近に感じたり、憧れの気持ちを抱いたりできたらと思います。

今後も、コロナ禍でもできる交流連携を探り、次への交流活動へつながっていくように、進めてまいります。

≪１１月の保育≫

★たんぽぽ組

『こうきたオリンピック』を終え、ますます体を動かすことが楽しくなってきています。繰り返しかけっこや巧技台を使ったサーキットをしたり、年長組から刺激を受けて、旗を使った踊りや、リレーごっこを楽しんだりする姿も見られます。寒くなってくる１１月ですが、今月も園庭や体育館で、思い切り体を動かして遊ぶ機会を大切にしていきます。

また、遊びの中で友達と関わろうとする姿が増えてきました。友達に自分の思いを言葉にして伝えようとしたり、友達の思いにも気付いたりできるよう援助しながら、一緒に遊ぶ楽しさを感じられるようにしていきます。

★に　　じ組

『こうきたオリンピック』では、一人一人が自分の持つ力を発揮し、大きなめあてに向けて友達とのつながりを感じながら活動を進めることができました。思い切り体を動かすことの楽しさを改めて感じた子どもたちです。今月も引き続きこうきたオリンピックで楽しんだリレーやボール投げを楽しみ、加えてルールのある鬼遊びやドッジボールも取り入れて、多様な動きを経験できるようにしていきます。

また、好きな遊びの中でイメージを膨らませながら、いろいろな表現遊びを楽しんだり、遊びに必要なものを自分たちで考え工夫しながら作ったりする経験をしていきます。遊びの中での楽しい表現や工夫など子どもたち一人一人の思いが、１２月にある“子ども会”につながっていくよう、学級全員で活動に取り組みます。そして、子ども会に向けて、一人一人が自分の力を発揮し、互いの良さを認め合いながら進めていけるようにしていきます。

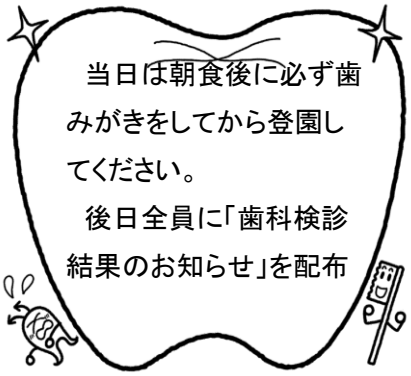
≪園からの連絡≫

歯科検診があります!!

11月9日（火）

園医　敦賀　佐和先生

（阿佐ヶ谷つるが歯科）



受診をすすめられた人は、早めに受診しましょう。欠席した人は予約して園医さんを受診してください。

動きやすい服でこまめに着替えを。

この時期は運動中にかいた汗で体が冷えやすくなります。こまめに汗を拭き、濡れた服はなるべく早く着替えましょう。

また、厚手の長袖や長ズボンは体の動きが制限されて十分な活動ができません。ケガをすることもあります。薄手で動きやすい服を身につけましょう。少しサイズに余裕がある服がおすすめです。

≪特　集≫

＜子育てのヒント＞　　本の紹介

急に冷たい風が吹いてきて、秋の深まりを感じますね。

今回は子育て支援として、保護者の皆様に本の紹介をしたいと思います。実際の本の内容や詩を載せることが著作権にかかわってしまいますので、ご紹介という形にさせてください。（もちろんネット検索でも出てきますよ！）

著書「子供が育つ魔法の言葉」　ドロシー・ロー・ノルト【Dorothy Law Nolte】

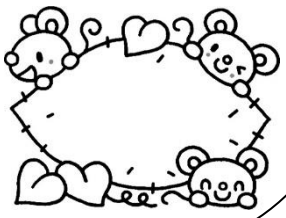
（その中の詩「子は親の鏡」が有名です）

すでにご存じの方もいるかもしれませんが、アメリカ・ロサンゼルス出身の**ドロシー・ロー・ノルト博士は**2005年に亡くなるまで、40年以上にわたって『家族について』の講習や親子関係の研究を続けていました。そして著書『子どもが育つ魔法の言葉』（1998年刊・アメリカ）は22ヵ国語に翻訳され、世界中で多くの共感を呼びミリオンセラーとなりました。詩「子は親の鏡」も37ヵ国語に翻訳されて、子育てのヒントとして多くの国の方に読まれています。

ドロシーさんは「子どもは親を手本にして育ちます。毎日の生活での親の姿は、子どもに影響力を持つのです。そのことを、詩『子は親の鏡』で表現したかったのです。」と言っています。また、「良いことも悪いことも、子どもは一番の見本である『親』を見て学習します。愛する子どもには幸せな人生を歩んでもらいたい。そのためには、親は自らの行動が子どもの『鏡』となっていることに気づくべきなのでしょう。」とも言っています。

自分の姿を、子どもにどのように見られているのか。ハッとさせられますね。「どうしてうちの子はこうなんだろう？」と悩んだ時に、読んでみると心にすっと落ちるかもしれません。日本の子育てとは感覚が違うと感じる方もいると思います。また、訳者により若干表現が違います。秋の夜長、図書館で本を借りたり、検索したり、親力を高めてみませんか。

ただし、子育てはのんびり、ゆっくり、後追い子育てを提唱している私としては、これを読んで「自分はダメな親なのかも…」と心配にならないでほしいと思っています。

子育ては知恵比べ。焦らず、作戦を立て、面白がって子育てに向かいましょう。
子育て相談を承っております。作戦会議と思って気軽に声をかけてください。

副園長　川副　園美